

Hayato Sumino Japan Tour 2026 “Chopin Orbit”

supported by **ROHTO**



2026.1.30 fri – 3.2 mon



ショパンの音楽には、矛盾した魅力があります。細部まで完璧に作られているのに、まるで今この瞬間に即興的に生まれたような呼吸がある。

その音楽をあるべき姿で立ち上がらせるのはとても難しい。けれど、その張り詰めた均衡から生まれる繊細な美しさを、僕は心から愛しています。

比べるのは到底おこがましいですが、自分の作曲でも、綿密さと自由さが同時に息づく音楽でありたいと願ってきました。だからこそ、ショパンの音楽を軸にして創作をすることは、自分にとってごく自然な流れでした。

アルバム "Chopin Orbit" は、ショパンの音楽を核に据え、その周りをさまざまな視点や手触りの作品が軌道を描く——そんなイメージから生まれました。

本日は、このアルバムに紐づいたツアーとしてお届けします。加えて、ショパンと同じく「踊り」を高度な芸術へと昇華したヒナステラ、そしてラヴェルの作品も合わせて演奏します。

ご来場いただき、ありがとうございます。最後まで楽しんでいただければ幸いです。

角野隼斗

Program

ショパン：スケルツォ 第1番 口短調 Op.20
Chopin: Scherzo No.1 in B minor, Op.20

ショパン：エチュード 変イ長調 Op.25-1「エオリアン・ハーブ」
Chopin: Étude in A-flat major, Op.25 No.1 "Aeolian Harp"

角野隼斗：リディアン・ハーブ
Hayato Sumino: Lydian Harp

ショパン：マズルカ Op.24より 第1番ト短調、第2番ハ長調
Chopin: Mazurkas Op.24 No.1 in G minor, No.2 in C major

アデス：マズルカ Op.27-2
Adès: Mazurka, Op.27 No.2

ヒナステラ：ピアノ・ソナタ 第1番 Op.22
Ginastera: Piano Sonata No.1, Op.22
I. Allegro marcato
II. Presto misterioso
III. Adagio molto appassionato
IV. Ruvido ed ostinato

角野隼斗：ポロネーズ「空想」
Hayato Sumino: Imaginary Polonaise

——— 休憩 ———

ショパン：ポロネーズ 第7番 変イ長調 Op.61「幻想」
Chopin: Polonaise-Fantaisie in A-flat major, Op.61

ショパン：子守歌 変ニ長調 Op.57
Chopin: Berceuse in D-flat major, Op.57

角野隼斗：ポストリュード「雨だれ」
Hayato Sumino: Raindrop Postlude

角野隼斗：エチュード「白鍵」
Hayato Sumino: White Keys

ショパン：エチュード 変ト長調 Op.10-5「黒鍵」
Chopin: Étude in G-flat major, Op.10 No.5 "Black Keys"

ショパン：ワルツ 第1番 変ホ長調 Op.18「華麗なる大円舞曲」
Chopin: Waltz No.1 in E-flat major, Op.18 "Grande valse brillante"

ラヴェル：ラ・ヴァルス（ピアノ独奏版）
Ravel: La Valse (piano solo version)

Program Note

ヒナステラ：ピアノ・ソナタ 第1番 Op.22
Ginastera: Piano Sonata No.1, Op.22

アルベルト・ヒナステラ（1916～1983）は、20世紀アルゼンチンを代表する作曲家。1945年から約2年間、アメリカで音楽活動を行ない、いったん帰国したのち、後半生は活動範囲をヨーロッパにも広げ、スイスで最期を迎えた。

《ピアノ・ソナタ》第1番は、1952年のピッツバーク国際現代音楽祭のために作曲され、作品は作曲家ロイ・ハリス夫妻に捧げられた。西洋のクラシック音楽を基盤としつつ、民族的なソノリティをさまざまに取り入れた作品である。第1楽章では、冒頭の主要主題が重音でエネルギーを打ち鳴らされる。感傷的な副主題には、主要主題の後半部分が用いられている。第2楽章の冒頭では、音階の12個の音がユニゾンで奏でられる。第3楽章は、ギターのような響きが印象的な緩徐楽章。最後に再び音階の12個の音が現われる。第4楽章は、マランボ的なエッセンスが存分に感じられるフィナーレ。荒々しく和音が打ち鳴らされ、同じリズムや音型が繰り返し用いられている。

ラヴェル：ラ・ヴァルス（ピアノ独奏版）
Ravel: La Valse (piano solo version)

近代フランスの作曲家モーリス・ラヴェル（1875～1937）は、スペイン国境に近いシブールに生まれ、生後まもなく家族とともにパリへ移り住む。パリ音楽院では作曲をフォーレらに学んだ。

ラヴェルは、バレエ・リュスの主宰者ディアギレフからバレエ音楽の作曲を依頼され、1920年に《ラ・ヴァルス》を完成させる。その音楽の初演は同年のうちにこなされたものの、ディアギレフによってバレエの舞台で取り上げられることはなかった。原曲はオーケストラでの演奏を念頭に作曲されている。この作品は、19世紀半ばのウィーンの宮廷がイメージされており、優雅な情趣に満ちあふれている。音楽は、序奏の後にワルツが続く。作品全体を通して3拍子のリズムを刻み続け、壮麗なオーケストラの世界が1台のピアノによって巧みに描き出されている。最後は、突然たたみかけるように結ばれる。

Biography

2018年にピティナ・ピアノコンペティション特級グランプリ、2020年に東京大学総長大賞を受賞し、一躍注目を集める。2021年にはショパン国際ピアノコンクールでセミファイナリスト、2025年にはレナード・バーンスタイン賞を受賞。また、オーバス・クラシック賞2025を史上初の2部門で受賞するなど、国内外で実績を重ねている。これまでにシカゴ響、ロサンゼルスフィル、バンベルク響、ウィーン放送響、ポーランド国立放送響、ポストン・ポップス、BBCフィル、N響、読響など、著名なオーケストラと共演を重ねてきた。東京大学在学中には6人組シティソウルバンド「Penthouse」を結成。2023年よりニューヨークを拠点に活動を展開し、2024年には日本武道館での単独公演を完売で成功させた。2025年11月にはニューヨーク・カーネギーホールおよびKアリーナ横浜でソロリサイタルを開催し、いずれも完売。Kアリーナ横浜公演は「屋内のソロピアノリサイタルで販売されたチケットの最多枚数」でギネス世界記録に認定された。YouTubeでは「Cateen(かていん)」名義で発信を続け、登録者153万人、総再生2.4億回超。作曲家として映画『ナイトフラワー』エンディング楽曲の提供をはじめ、映画、テレビ、CMなど幅広い分野で活動し、「街角ピアノ」「徹子の部屋」「題名のない音楽会」などのメディア出演のほか、J-WAVE「TOKYO TATEMONO MUSIC OF THE SPHERES」のナビゲーターも務める。「Newsweek」「AERA」の表紙を飾るなど話題も尽きず、フィギュアスケートの鍵山優真選手への楽曲提供など音楽活動の幅を広げている。2024年にSony Classicalと契約を結び、世界デビューアルバム『Human Universe』をリリース。同作は第39回日本ゴールドディスク大賞「クラシック・アルバム・オブ・ザ・イヤー」を受賞し、革新性と芸術性の双方で高く評価された。最新作『CHOPIN ORBIT』は、2026年1月21日に3形態でリリース。発売を記念した全国ツアー（全16公演）も開催。音楽を通じて国境や世代を越えたつながりを生み出す存在として、今後のさらなる飛躍が期待されている。



<https://hayatosum.com/>

Hayato Sumino Japan Tour 2026 “Chopin Orbit”

supported by ROHTO

- Jan 30 fri
長野：八ヶ岳高原音楽堂
- Feb 01 sun
神奈川：横浜みなとみらいホール
- 03 tue
茨城：水戸市民会館 グロービスホール
- 07 sat
北海道：帯広市民文化ホール
- 08 sun
北海道：札幌コンサートホール Kitara
- 11 wed
秋田：あきた芸術劇場ミルハス
- 13 fri
東京：東京芸術劇場 コンサートホール
- 15 sun
大阪：ザ・シンフォニーホール
- 17 tue
京都：京都コンサートホール
- 21 sat
広島：三原市芸術文化センター ポホロ
- 22 sun
香川：レクザムホール（香川県民ホール）
- 24 tue
福岡：アクロス福岡 シンフォニーホール
- 25 wed
熊本：熊本県立劇場 コンサートホール
- 27 fri
愛知：愛知県芸術劇場 コンサートホール
- Mar 01 sun
東京：サントリーホール
- 02 mon
東京：サントリーホール





Privia PX-S7000

彩る、そのスタイル

ピアニスト角野隼斗が選んだのは
Priviaの洗練されたデザインと上質な響き



角野隼斗 × Privia
スペシャル企画のご案内

【これまでのコラボレーション動画も一挙公開中!!】



Privia
スペシャルサイト

CASIO
Sound for Style

CELVIANO
Redefining Tradition and Innovation

世界的ピアニスト マルタ・アルゲリッチ
と 角野隼斗の対談が実現



「こういった質の高い鍵盤
で練習できるのもいいこと
です。
柔らかい音で演奏したいと
思うこともあるでしょう。
このピアノはそういった音
を上手に表現してくれます
ね」



対談インタビュー記事
も収録はこちら

マルタ・アルゲリッチとCELVIANO



アルゲリッチにとって、練習だけでなく
心の安らぎを得られる大切な場所であり、
「音楽の喜びを通じて平和を共有することが
できる場所」として特別な意味を持つ。



寄贈された「CELVIANO」
常設のグランドピアノと美しく調和し、
今では欠かせない一台となっている。

■ しいきアルゲリッチハウス (大分県別府市野口原 3030-1)
<https://argerich-mf.jp>